

(1) 工事コストの低減

⑰建設副産物対策

シールド掘削泥土の有効利用で建設リサイクルの向上とコスト縮減

水資源開発公団 房総導水路建設所 北部幹線バイパス第1工区工事

【施策の概要】

従来、シールドトンネルの掘削泥土は、坑外へ流体輸送し脱水処理して最終処分場などで処理していました。

当北部幹線バイパス第1工区工事では、掘削泥土に含まれている砂分の有効利用を図る目的で現地に掘削泥土の分離設備を設置し、分離した砂分はストックヤードに仮置き後水路改築の埋戻土などに有効利用を図り、最終処分場での処理量を減らすことでコスト縮減を図りました。

【施策のポイント】

- ・北部幹線水路の既設水路改修並びに新設バイパス水路の全体土工計画をたて、バイパス工事に伴う発生土を水路改修で有効利用することとしました。
- ・掘削泥土のうち砂分を分離し有効利用することにより、最終処理する掘削泥土（粘土・シルト分）の搬出量を減し、最終処理に要するコスト縮減を図りました。
- ・砂分を分離しストックヤードに仮置き後水路改築の埋戻土などに使用することにより建設リサイクルの向上を図るとともに、新たに埋戻土を購入する必要がないためコスト縮減となりました。
- ・これらを行うことにより、本工事において全量建設泥土の最終処理する費用と比較して約5.3%の工事コストの縮減が図られました。

【施策の実施状況・イメージ図】

